

◆指導展開例 わたしたち歴史探検隊 自治都市・堺とその遺産（全5時間）

		社会科		総合的な学習の時間
		学習活動・内容・生徒の思い	指導上の留意点	資料等
時 1 ・ 2	<p>「私の『自治都市・堺』を見つけよう」</p> <p>テーマ例</p> <p>○調べるテーマを決め計画を立てよう</p> <p>①自治都市・堺はどのような都市だろうか</p> <p>②中世の堺はどのように発展したのだろうか</p> <p>③近世の堺では、どのような産業が発展したのか</p> <p>④堺が生み出した文化とはどのようなものか</p> <p>⑤現代に伝わる堺の伝統産業にはどのようなものがあるか</p> <p>○テーマを追究する計画を立てよう</p>	<p>○資料から、16世紀頃のヨーロッパでは、堺は日本を代表する都市として知られていたこと等、自治都市・堺についての知識を交流し、整理する。</p> <p>○これまでの学習や経験を踏まえて、単に過去の事象を調べるだけではなく、現代を生きる自分にとっての「自治都市・堺」の発見と発信が学習のねらいであることが理解できるようにする。</p> <p>○予想されるテーマをもとに、追究に必要な博物館・資料館などの情報を用意し、計画の立案と実行を支えるようにする。</p>	<p>○教科書（東書）P80「日本島図」</p>	
3	<p>○調べてみよう① 博物館を訪ねよう</p> <p>・「私の『自治都市・堺』」のイメージを明らかにしよう。</p> <p>・より詳しく調べたいことを見つけよう</p> <p>○学習計画を見直す</p> <p>・堺には多くの伝統産業が現在にも受け継がれていることがわかった。刃物の製造をしている職人さんを訪ねて作業の様子を見学することはできないだろうか</p>	<p>○堺市博物館の見学</p> <p>・テーマに沿った「自分にとっての自治都市・堺」の概略を知って主張のイメージをつかむとともに、さらに詳しく調べたいことを明確にすること</p> <p>・</p> <p>○学習の進展に応じて、テーマ追究の計画を随時改めることができるようにする。</p>	<p>○堺市博物館 HP</p>	
4	<p>○調べてみよう② 例：刃物の製造を見学しよう</p> <p>・見学前に自分たちで調べられることは調べておこう</p> <p>・事前に質問事項を整理しておこう</p> <p>・許可をもらって、カメラやビデオに作業の様子を収めよう</p> <p>・現代でも、プロの料理人が使っている包丁のほとんどが、堺でつくられているものだと言われている</p>	<p>○（〇〇刃物鍛造所）の見学</p> <p>・見学ができる事業所を調べておく</p> <p>・本来見学を前提としていない場所であることなど、仕事の妨げにならないように注意を促す</p> <p>・何度も見学することはむずかしいため取材もれ等のないように、事前に十分に計画すること。</p> <p>○必要に応じて堺伝統産業会館の見学を行う。</p>	<p>○堺伝統産業会館 HP</p>	
5	<p>○調べたことをまとめよう</p> <p>・テーマに合わせて、効果的な方法で表現しよう</p>	<p>○成果物作成の留意点</p> <p>・見学や聞き取りした内容を項目ごとに整理する</p> <p>・項目ごとに分類したものを順序立て、ポイントをまとめる</p> <p>・自分で考えたことや疑問に思ったことを書きだす</p> <p>・説明は調べたことを短くまとめて分かりやすく表す</p> <p>・絵や写真を使って効果的に表す</p>		

【テーマ別の指導例】

テーマ例・問題意識・追究の内容	指導上の留意点	資料等	総合的な学習の時間
<p>1. 「堺」の繁栄と日本の歴史のつながり</p> <p>□私たちの町「堺」が繁栄したのはいつごろ？ 日本の時代（歴史）と堺の繁栄の歴史とを関係づける。</p> <p>□なぜ「堺」が150年も栄えたの？</p> <p>(1) 堺の繁栄を支えた二つの貿易（堺商人）</p> <p>① 遣明船貿易（勘合貿易）1469年～1523年 → 特徴は？ → どんなものを貿易して利益を得た？ → どれほどの利益を得たのだろうか？ → 利益はどうしたのだろうか？</p> <p>② 南蛮貿易（織田・豊臣時代頃） → キリスト教の布教と交易 → 1550年フアンシスコザビエル 来堺 ガスパール＝ビエラ 来堺 ルイス＝フロイス 信長の保護を受ける → 呂宋助左衛門の活躍 → 莫大な富を持つ堺に目を付けた織田信長から2万貫の軍資金を要求され、会合衆はこれを支払う。</p> <p>(2) 堺の繁栄を支えた高い技術（堺職人）</p> <p>① 鉄砲の伝来と製造 → 誰が伝えたの？ 1543年ポルトガル人（フェルナン・メンデス・ピント）が中国船で漂着。「火縄銃」が伝えられる。 → どうやって製造したの？ 堺商人（橋屋又三郎）が製造技術を堺に持ち帰り、高い鉄の加工技術を持つ職人による鉄砲生産。 → 戦国時代に大きな影響。</p> <p>② 戦国時代の主要武器になり、全国の武将から大量の注文。 大坂冬の陣、夏の陣の際には、豊臣方からも徳川方からも鉄砲の注文。</p>	<p>（補足すべき事項と留意点）</p> <p>○1467年の応仁の乱以後、遣明船の入港地が堺・博多になる。1615年の大坂夏の陣で堺の町が焼かれるまで、およそ150年間繁栄した。</p> <p>○節目となる事象の整理 応仁の乱により遣明船が堺に入港。</p> <p>○「商人」による莫大な利益が「堺」にもたらされた。応仁の乱・文明の乱（1467～1478年）で荒廃した京都の復興（大徳寺伽藍などの再興）に堺商人の富が費やされた。京都（都）の復興財源。また、独自の文化を生み出すことになった。</p> <p>○織田信長の南蛮甲冑や南蛮衣装はポルトガルから堺を経てもたらされた。当時を表すテレビドラマや写真・絵などで描かれる南蛮文化の品々の多くが堺商人を経てもたらされている。</p> <p>○古代（古墳時代）～平安時代から鍛造、鑄造の技術 ○堺の鍛冶屋が大量生産に成功 ○鉄砲の鉄筒製造、火縄製造など独自の技術 ○他にも建築技術、造船技術ほか鉄の加工技術など</p> <p>○長篠合戦（1575年）で織田・徳川連合軍が武田騎馬隊を中心とした軍団を、一隊千丁ずつ三隊による連続斉射を行う戦法で破る。</p>	<p>『わたしたちの堺』31頁～</p> <p>輸出品：硫黄、銅（国内で買い取った5倍の値で明国で売れた記録）などの鉱物、刀剣ほか、 輸入品：生糸（明で購入した20倍の値で国内で売れた記録）、明銭（永楽宝銭）</p> <p>輸出品：硫黄、銀、海産物、刀、漆器、など 輸入品：生糸・絹織物、硝石（火薬の原料）、ガラス</p> <p>○16～17世紀狩野内膳南蛮屏風</p> <p>○黒姫山古墳（美原区）から5Cの鉄製甲冑が出土。</p> <p>○堺の鉄砲鍛冶／和泉の名所図会</p> <p>○長篠合戦図屏風</p>	

<p>2. 自治都市「堺」</p> <p>□なぜ「堺」の町にはお城がないのだろう。 → (室町時代以降) 歴史的に古くから栄えた町は都がおかれたり、城郭を中心として繁栄したりしたところが多い。なぜ堺の町にはお城がないのだろう。</p> <p>□いったい誰が繁栄している「堺」の町を治めていたのだろう。 → 商人の集まり (会合衆) → 会合衆って何? → 政治の中心はどこ? (会所) → 「堺」の自治組織の役割は? → 他の地域 (町) の政治とはどこが違う?</p> <p>□会合衆による自治が行なわれていた「堺」の町の特徴は? → 環濠とは? 町の周囲に堀のような環濠で囲み町を防御。自治を行ない、自由な生活。 → なぜ「堺」が、「東洋のベニス (ベネチア)」と言われたのか? ・堺独特の自由な雰囲気—自治都市 ・堺から多くの文化が生まれる—茶の湯など</p>	<p>○戦国時代の初期は山城であったが、安土桃山時代以降は統治しやすい平城となる。江戸時代以降は一国一城令により、多くの山城が取り壊された。</p> <p>○お城を中心に栄えた町 (城下町)</p> <p>○もともと城郭があって、それらが戦乱や先の大戦で焼失した城跡がある町は多くある。また、明治期に開港したり、開発の基点となったりして比較的新しい町は城郭がない。</p> <p>○自治を行なう組織があり、他の地域のように戦国武将や守護大名が統治する形態とは大きく異なったこと。</p> <p>○諸勢力から町を守るために町を濠で囲み、防御機能を備える。現在の環濠は江戸幕府直轄地になって以降再整備されたもの。</p> <p>○堺が当時世界で最も進んでいた町、北イタリアの自治都市ベニス (ベネチア) と似ていると評されていた。(政治面、文化面、町の雰囲気など) このことの意義 (世界的意義) を述べる。</p>	 <p>堺の町(環濠がわかる堺市 HP)</p> <p>○会合衆：堺の有力商人 36 人による合議機関。特に 10 人の納屋衆 (倉庫業を営む商人) が最も有力な会合衆とされた。この中には、今井宗久、千利休らもいた。</p> <p>○会所：会合衆が政治、経済、祭礼、裁判などを話し合ったところ。現在の旧開口神社境内付近にあたる、とされる (堺市 HP)</p> <p>○宣教師 (ガスパル・ヴィレラ) は、堺の様子を見て、『耶蘇会士日本通信』の 1561 年 8 月 17 日付け書簡に、「この町はベニス市の如く執政官によりて治めらる」と記した。</p> <p>○ベニス (ベネチア) は、11 世紀終わり (1096 年) から開始された十字軍遠征の物資の集散地として莫大な富を得た都市。自治都市となり堺同様に豪商が政治を行っていた。ルネッサンス期、豪商に保護された芸術家が自由な発想でルネッサンス芸術を生み出した町の一つ。人間中心主義の文化を発祥させた町。</p>	
<p>3. 自治都市・堺が生み出した「平和の文化」</p> <p>もてなしの心</p> <p>□「もてなし」ってどうすること? → 自分がどのようにもてなしてもらったら嬉しい? → 全ての人が等しく扱われてもてなされるためにはどうしたらよいか?</p> <p>□戦国時代、人と人が相互に信頼関係を回復し、新たな人間関係を築くためにはどうしたらよい? → 堺の人々はこのことを一生懸命に考えた。</p> <p>□主人が客の目の前で全てを見せながら濃い茶をたて、順にふるまう“もてなし”を行なう。</p>	<p>○自分が大切にされる、尊重される、歓迎される、喜んでもらえる時など、自分の経験から考える。</p> <p>○他の人同様に自分も対等・平等に扱われることの大切さ。同様に他人に対する態度の大切さ。</p> <p>○戦国時代の人間不信の時代に人間相互の信頼回復と新たな人間関係づくりの形成に必要なだと考えられた。</p> <p>○これまでの料理、酒、宴会など“豪華”にもてなすやり方ではなく、家のつくり、家具、迎える作法な</p>	<p>○宣教師 (ジョアン・ロドリゲス/ポルトガル 1577 年来日) が、堺のもてなし文化を『日本教会史 (全 3 巻)』に記す。</p> <p>○角山榮『世界史から見た中世・堺の茶の湯』(堺市博物館元館長)</p> <p>○応接、礼儀作法、料理、酒、お茶と宴会で相手をもてなす。これが本来の“もてなし”の概念だった。しかし、応仁の乱以後戦国時代にはこれら“もてなし”が成立しなくなり、凝縮した形で“お茶席”だけを独立させた。</p> <p>○主人が客の前で茶をたてる作法は、毒がはいっていないことを示す儀式とも言われる。</p>	

<p>□もてなしの空間は、信頼感の漂う人間関係の形成を目指すものであり、身分に関係なく、主客対等で、安全な場所としての位置づけ。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 茶室はどんな構造か。 くぐり戸、狭い部屋、武器を持ちこめない。 → 堺は、もてなしの心、ふれあい、人間関係づくり（つながり）を大切にする文化を育んだ。 → 「一期一会」 → 世界に広がる「茶道文化」 → 自治都市「堺」の「平和の文化」 	<p>どを徹底的に凝縮して、最後のお茶席だけを独立させた。</p> <p>○時の権力者（織田信長や豊臣秀吉など）は、茶の湯を政治的に利用することで武力だけでなく文化的権威も手に入れようとした。（高価な茶器、大茶会など）</p>	<p>○豊臣秀吉の権力に服さなかったために切腹を命じられた千利休の後、子や弟子によって引き継がれる。</p> <p>○一期一会：人と人との出会いを大切にして、信頼のある人間関係を築く。</p>	
<p>4. 「堺」のその後</p> <p>□中世の繁栄の終わり。その後はどのように生まれ、発展したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> → 1615年 大坂夏の陣で豊臣方に堺の町が焼き払われる。 → 直後から江戸幕府による復興が行なわれ、幕府の天領（直轄地）としてこれまでより大きな環濠が巡らされる。 → その後、復興に際して環濠の東側一帯に約300の寺院が建立され「泉南仏国」（寺の町）に変化。 → 1639年 鎖国令の完成により、海外との交易は長崎の出島に限られ、中国とオランダ以外の交易は禁止された。 → ポルトガルから伝来していたたばこを刻むための包丁（たばこ包丁）が幕府の専売品となり「堺極」として販売された。 → 1706年 大和川の氾濫を防ぐために河川改修がおこなわれた。これにより大量の土砂が堺港に堆積し港の機能が失われた。 → 1790年－1810年 江戸の商人 吉川俵右衛門により堺港が改修・整備された。 菱垣廻船による江戸と大坂との物資輸送。 → 明治30年代（1890年代）に自転車伝わり鉄の円筒技術やスポークの加工技術の高さから、自転車の生産地となる。 	<p>○堺は豊臣方からも徳川方からも鉄砲などの注文を受けていた。堺の経済力が徳川家康に利用されないよう町が焼き払われた。</p> <p>○新しい町づくり</p> <p>○堺市の地図から寺院を確認させる。</p> <p>○堺は海外との交易によって栄えてきたため、鎖国令により交易が不可能になった。</p> <p>○卓越した鉄の加工技術が再び公に認められた。</p> <p>○大和川を住吉と堺との間に流れを変えた、など地理的な知識も示唆する。</p> <p>○国内の荷物運搬のための船も利用が困難になる。 ○再び堺港で国内の取引が可能になる。菱垣廻船。</p> <p>○現在の国内生産シェアの40%を占める。</p>	<p>泉南仏国：代表的なお寺と寄進した堺商人 武野紹鷗 南宗寺：臨済宗大徳寺派別格寺 呂宋（納屋）助左衛門 大安寺：臨済宗東福寺派ほか</p> <p>江戸の商人・吉川俵右衛門の功績を称え、堺駅は吾妻橋駅とも言われた。意味は「江戸→東→吾妻」。</p> <p>○幕末の堺港周辺絵図 1863年</p>	

<p>→ 与謝野晶子「みだれ髪」歌集（1900年）</p>	<p>○1904年 「君死にたまふこと勿れ」詩</p>	<p>明治20年ごろ（1887年）の生産品。 ①清酒、②緞通、③醤油、④レンガ（古墳時代から続く）、⑤菜種油 ⑥包丁他刃物（堺市史第3巻）</p>	
<p>5. 未来に拓く堺の「平和」の文化</p> <p>(1) ものづくり（包丁編） 世界から認められる包丁の生産地 □何種類の包丁をつくっているか □日本の料理人のどれくらいの人が堺の打刃物（包丁）を使っているか。 □なぜ堺の包丁は有名なのか</p> <p>(2) ものづくり（探究編） □他には、どのようなものづくりで社会を支えているか → 線香 → 和さらし → ほか</p> <p>(3) 世界に発信 <形を変えた国際交流の場> □堺が世界に発信すること → 国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」が毎年5月に開催 ○自転車製造技術が世界のレースを支える。 ○国内外の国際交流の場 ○ボランティアとの交流 → UNESCアジア太平洋無形文化遺産センター ○その活動には、(4)「堺市と協力の上、国際協力センターの活動成果を活用する諸事業の運営、また無形文化遺産保護の一般市民への普及・啓発、および理解の深化への取り組み。」が示される。 ○このように、堺市がアジア・太平洋地域の文化を尊重し、それを大切なものとして深める役割を担うことになった。</p> <p>(4) まとめ □国際交流による平和は、市民一人ひとりの手でつくられる町へと発展。</p>	<p>○鍛冶職人、研ぎ職人の連携 ○堺刃物と堺打刃物はことなる。前者は工場生産。後者は鍛造品。 ○包丁の断面は左右対称ではなく湾曲している。この角度によりいつまでもよく切れる。</p> <p>○地域の産業や生産物が堺の重要な産業であり、包丁以外にもたくさんの伝統的なものづくりがあることを示す。</p> <p>○鉄の加工技術→鉄砲→包丁や自転車へと形を変えている。 ○堺ステージは大仙公園周辺で行なわれる。</p> <p>○独立行政法人国立文化財機構の機関の一つとして2011年10月にUNESCOアジア太平洋無形文化遺産センターが開設された。市立博物館に開設。 ○UNESCOは、「戦争は人の心の中でうまれるものだから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という、教育を通じて平和を実現する国際機関。UNESCOの意義をまず伝える。 ○無形文化遺産は、有形の世界文化遺産（文化遺産、自然遺産、複合遺産）だけでなく、各地域や民族に固有に伝えられる口頭伝承や無形の文化を人類の文化遺産として保護する。この意義を伝える。</p>	<p>○菜切包丁、うなぎ包丁、刺身包丁、柳刃包丁、出刃庖丁、たこ引き包丁、身卸包丁、薄刃包丁、はも包丁、左利き包丁ほか16種類があるという。 ○堺打刃物は、昭和57年に通産省から伝統工芸品に認定を受ける。 ○「一般財団法人貿易研修センター」HP参照</p> <p>堺市HPに詳細がある。</p>  <p>○東京・大井埠頭を最終ゴールとして、大阪府堺市から長野、静岡など大都市から山岳部までの7つの開催地を東進して全8日間で競う ○ツアー・オブ・ジャパン組織委員会 堺ステージ実行委員会 ○UNESCO アジア太平洋無形文化遺産 HP より 2009年10月のユネスコ総会において、ユネスコ賛助によるアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際協力センター（ユネスコ・カテゴリー2センター）の日本での設立が承認されました。これを受けて、2010年8月ユネスコと日本政府との間で当該趣旨の協定が締結されました。その後、2011年10月、独立行政法人国立文化財機構は、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の取り組みを強化する拠点として、アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）を設立しました。</p>	